◆アメリカ・ミシガン州駐在員便り◆

2008/09/22　駐在員：宮村　佐衣子

【高校生相互派遣プログラム】

9 月 4 日から、滋賀県の高校生 20 名と引率教員 3 名が高校生相互派遣プログラムのため、ミシガンを訪れました。

このプログラムは、ミシガン州の高校生 20 名と滋賀県の高校生 20 名を相互に派遣する事業で、ミシガン州からは毎年 6 月に 2 週間滋賀県を訪れ、ペアとなった滋賀県の高校生の通学する高校へ一緒に登校し、同高校生宅にホームステイを行い、日本の高校生活を体験します。

反対に、滋賀県からは毎年 9 月に 2 週間ミシガン州を訪れ、6 月に受け入れた高校生の通う高校に一緒に登校し、その高校生宅にホームステイを行い、アメリカの高校生活を体験するというものです。このプログラムの運営は滋賀県教育委員会とミシガン州立大学が共同で行っており、平成 2 年（1990 年）から続いているものです。

到着した翌日には、時差ぼけにもめげず、元気に州政府へ表敬訪問に訪れました。私も通訳として同行いたしました。

9 月 20 日にシェラトンホテルで開催された送別会では、滋賀県とミシガンの○×クイズ大会がありましたが、全員が正解し、お互いの州と県についてよく理解してきたことが感じられました。

また、滋賀県の高校生が 2 週間お世話になったホストファミリーと 2 週間の思い出を披露し、感謝の言葉を述べる場面では、涙で言葉がつまりながらも、堂々とユーモアを交えながら、流暢な英語でお礼を述べ、精神的にもたくましく成長した姿が見られました。

送別会の最後に、司会をつとめた先生から「ミシガン州の私たちと滋賀県のあなた方の間には、何マイルもの距離がありますが、心はいつも一緒です。」と述べられ、海を超えて遠いミシガン州と滋賀県との絆がまた一層強いものとなり、次世代のリーダーとなる子どもたちの間に、日米の新しいかけはしができたことを確認しました。